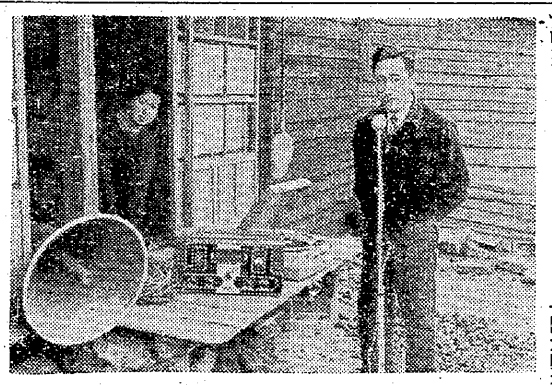
マイクができたぞ！
主婦会、ポンと地域へ献金

四山支部福五分会ではこんど新しいスピーカー、マイク、プレヤーアンプなど一式を購入、これで地域活動に拍車をかけられると大張切りだが、この購入の裏には主婦会の尊い献金があり、地域分会、主婦会が一体となつて進む美しい姿がいま地域で美しい話題となつている。



×　×

この福五分会ではいままでマイクなど拡声装置一式をもたず不便をかこつていたが、とくに他分会では闘争時などスピーカーを通じて呼びかけや労働歌合唱などじやんじやんやつているのをみるにつけ肩身のせまい思いを役員、分会員一同が味わつてきた。

これではいけない、どうでもしてとにかく購入しなければと拡声装置一式購入の運動が起つたのも当然であつたこの運動が起るや主婦会にはこれがすぐ知れわたり、地域分会と主婦会は一体となつて進まねばならないとき地域分会の方で苦労しているのを默つてみてはおけないと話合つた末、主婦会での行事（旅行など）は必要以外は取止めてでも援助しなければと協力に立上り予算の少い中から一万五千円をポンと地域分会の方に投げ出して経費の一部を負担した。

こうしてどうにか購入の目鼻がつき、現在真新しい拡声装置一式が地域分会に購入されたのだが、みんなこの主婦会の美しい行為には非常に感謝している。

真新しい一式をながら長崎分会長は「組合のよりもぐんと良いぞ」と盛高々である。

花と競う文化祭
健康的な民謡ものが多い

宮浦支部主婦会では桜花らんまんの四月九日、大牟田市民会館で宮浦文化祭を催すことになつた。

主婦会の手による文化祭だけに、はやくも各地域では大きな期待をよせているが、いま各分会では文化祭に上演するだしものの練習に大童で、余念がないありさまである。

文化祭のだしものをみると、さすがに主婦の文化祭にふさわしく舞踊が全般的に多くみられ、とくに目立つたのは終戦後に非常な流行をみせたヤクザもの式の舞踊がすつかりかげをひそめ、主婦会としての組織活動のめばえや、また宮浦で招いて公演させたカチューシヤ劇団や歌ごえなどが大きく影響して、民謡などの集団舞踊が大部分をしめているのが大きな特徴である。

このように民謡調の多いなかでもとくに期待されているのは、大砂が上演する予定である「原爆許すまじ」であろう。これは以前同分会、主婦会でやつていたのを、こんどまた新しくつくりなおしたものだそうである。

このほか「オラは炭鉱夫だ」をとり上げている分会などもある。

またこの文化祭に特別出演として宮浦支部組合員で組織している「そよかぜ楽団」が演奏することになつており、楽団と踊りなどの組合せが行われることになつている。

このようにこんどの文化祭は全体的に働くものの、とくに主婦としての健康的なものが感じられるもので当日の盛況がいまから予想されている。

なお上演は一部から三部までにわかれて行われる。

三川でも開催

三川支部でも花の四月の十四、二十一、二十八日の三日間、それぞれ緑ガ丘、万田、三川の各講堂で文化祭を行うことが決定した。

とくに同支部では楽団、民八、コーラスなどのサークルも結成されたので、これらのサークルの発表会もかねて行われるので盛況が予想されている。

素人演芸種目としてはとくに地域分会単位に行われるので、各分会の持味をいかした独自の名人芸も披露されるのではないかと下馬評もしきりで、落語、浪曲、三味加、劇、万才歌謡曲、手品、その他の種目が組まれ、非常にバラエティにとんだものである。

頑張れよ
西独三人男から激励

西独派遣の日本労働者の一行として活躍している三池の三人男＝川崎、本田、貝田の三君＝から、便りがありました。すでに優闘は妥結しましたが、現地から出したときはまだ闘争中でしたので、闘争激励の手紙です。

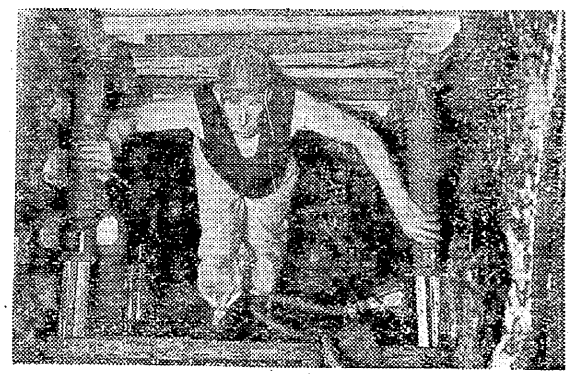
優闘日増しにし烈とのよし、連日最前線にてご健闘の諸兄に敬意を表し、要求百パーセント獲得を祈る。

私たちもみんな闘争について心配しています。最後まで頑張られますようお祈り致します。

ご健闘あれ。

以上の内容です。三君の留守家族では元気で働くようにと家族中が心配して健康を祈つていますが遠い異境の地へ息子を送つている親心としては当然のことでしよう家族の人たちは西独の日本人が働く炭鉱や町のことを掲載した新聞は丹念に切抜いてスクラップブックを作つておられます。

三君が元気で働くよう、われわれも心に念じましよう。



（写真は西独炭鉱内で働く西独の炭鉱夫）

希望採訪
海上を照す心の灯
三池港燈臺を尋ねて

四山の頂上に白いスマートな建物がそびえています。こゝが三池港燈台です。

この燈台は昭和二十六年十二月二十日に初点、つまりあかりがつきはじめたのです。

入口から入つてすぐ右側が事務所で、左側に仮眠きの休憩所があります。

この燈台は海上保安庁の所轄になつていて、現在署長以下五名の人たちが海上安全のために日夜勤務しています。燈台の高さは海抜六五・八米、建物だけの高さは十三・二米となつているキラリ、キラリと今日も燈台の灯は輝いています。普通のときはそうでもありませんが、船からみる燈台の灯というのは、みる人に大きな安心感をあたえるものでしよう。全く海上では心のともしびとさえ感ずるほどです。今回は燈台とともに生活するこの人たちを訪れて話をきこうと、四山の頂上にある三池港燈台へと探訪しました。

（案・三川　槙木鉄男）

塔上の発光機は四十糎回転ビーコンといつて十秒間に一回転しかみえないときもあるそうです。

いま日本の燈台の中で一番燭光数の大きいのは二百五十万燭光だそうで、燈台ではこの燭光数によつて一等から六等まで分けてあります。

三池燈台は「ありあけ」という巡視船をもつていて、通常陸上三人、海上二人の勤務をしています。有明海周辺には燈台数がべなどを他の燈台へ運んでいるそうです。

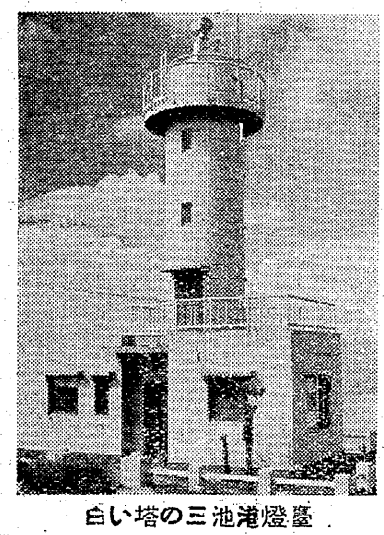
燈台の勤務状態は普通の官庁と大体同じだそうですが、違うのは燈台をもつているので昼間シケておれば午前中は事務、ナギのときは各燈台を巡視するそうです。そして夜間は発光機の点燈に注意し、交替で沖を監視するそうです。

燈台に火がともるのは日没から日の出までになつています。

絶海の孤島と違つて地続きな燈台のため、大変便利がよいのが三池燈台の特徴だそうで、おまけに船を持つているので辛いことはありませんと職員の人たちは張切つています。

離島にポツンとある燈台の勤務は全く辛いそうで、人権なども考えられないような勤めらしくこういうのを集約管理するのが計画されているそうで、これがいま一番大きな望みだとのことです。

六秒を距てて四秒の光光を放つています。光源は二十万燭光でよく晴れた闇夜では二十海里ぎきでも光をみることができるそうです。これは一番条件がよいときのことで、もしもモヤがあつたり、発電所の煙が風の方角で南にでも流れるときなどは沖を通つていても、この燈台の光十七台あつて（浮燈台も入れて）昼間は大てい船にのつて燈台の異常をみて回るそうです。一カ月に二回以上は一つの燈台をみて回らねばならぬ規則になつているし、異常があればその都度回らねばならないようになつているそうです。ですから月のうち半分は船で回つたり、ポン



白い塔の三池港燈臺

身近な学習を
行動隊で話合う

四山支部行動隊では月に二回地域の教育、文化部長と班長、副班長が集つて講座をもつているが、去る二十四日も組合会議室で約二十数名が集つて、こんどの問題についていろいろ話合つた。

話合いは午前九時半から行われたが、まず現在問題になつている組合の規約改正について専門委員の長崎委員から、規約についてのあり方について説明をきき、その後改正点の説明が行われ、こん後闘う三鉱労組の規約についての学習活動を行つた。

このあと自由討論に入つたが、メーデーにどう取組むかということで討論となり、結局労働者の祭典であるという趣旨をいかすように農民、中小企業の人たちも働く者びを味うような行事にしたいという一致をみた。

また学習活動については、非常に大切であるけれどもいままでのように大学の先生を招いて行うのもよいが、四山支部としての身近な問題を取上げて本部、支部の執行委員を招いて、ほんとうに問題になつているところを勉強したらよかろうということになつた。

〝知識づくり〟好評
週一回浴場横に掲示

四山支部教宣部では去る二月のはじめから行つている〝知識づくり〟が非常に好評を博している。

この〝知識づくり〟というのは、われわれとしてはぜひ知つていなければならない、いろいろな規則やさだめを掲示して、とかく忘れがちでそのため損をするようなことがあるし、こういうことのないようにとはじめられたものであつた現在この掲示場は浴場横に一カ所設けられているが、入浴のざいの一行き帰りに目につくところだけに非常に利用されている。

いままでに行われたものは「基準内賃金と基準外賃金はどのようにして定つているか」「健保等級はどのようにしてきまるか」「慰労休暇のハンイはどのくらいか」等だれにも分りやすいように解説してある。

いま一週間に一回実施しているがすでにもう二カ月近くたつているなかには、来週はこういうものをぜひ掲載してくれという電話まで現場からある始末で、しだいにこの〝知識づくり〟も軌道にのつてきたようである。

支部では、みんなでお互いにこれによつて勉強し合い、知識を広め研究する資料にしたいといつているが、退職金の計算方法などの要望もでているので、近いうちにこれを取上げることにしている。

小倉山で練成
組合員の生活革命運動が中絶をし

ているような状態だが、この運動をこんどなお、地域活動の中に持込んで組合員の規模ある活動が切にのぞましいということになつたまた行動隊の練成として小倉山か三池山かで浩然の気を養うようにしたい。それには手弁当をもつてでかけ、この日の一、二時間を利用して学習活動をやつたらどうかということが話合われたが、これは執行部で近いうちに計画されることになつた。

大谷選抜きまる

三川支部では各地域でいま少年野球の予選がたけなわである。大谷地域分会でも十七日熱戦を展開、晴れの選抜選手の選衡を終えた。

【写真上はこの日の球戦】

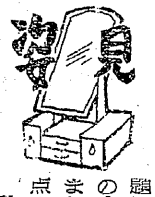
幼稚園の終了式である

今日は幼稚園の終了式である。入園してより早や一年、自分の事は何でも出来、精神的にも大分成長した。先生方に対し感謝の気持で一杯で門を入る。式場には草花の匂う中に平和のシンボルである鳩が二羽終了証書をくわえてとびおりている風景が作られている。ここにも先生方のあたたかいおもいやりが現れて眼頭がジンとする。

式は順々と進み終了証書を渡される時となつた。一人一人の子供は名前を呼ばれ全員起立した。すると思わぬ場面が展開され耳をうたぐつた。

それは右総代何のなにがしと言われ代表が一人進み出、会社のおえら方が「右者本園保育の課程を終了したことを証します」とやうやしく渡されたことである。後の方で、「御名御爾と言うあのいやな声を連想するね」と声もする。

私は思う。真白き高嶺の新雪のような園児にどうひびいたろうかと……。小学六年生でさえ右総代は生徒の劣等感をそそるものとして全国的に反対されている時、幼稚園のこのことは反省すべきではなかろうかと。皆さん後で先生よりお渡しますよと言つて、園児を着席させることは出来なかつたろうか。人間は自分が頭のよいようにとか、金持の家にとか注文して生れたのではない以上、平等である。まして幼稚園の優劣は問題にならない。その人その人に他のまねの出来ない美点を持つている。



私は子供が「あの人達はやすみなさらんやつたけんね」と言つた一事で、この事が如何に幼心に影響するかと重大に考えて、ある先生の心を思い、不愚議なような気がする。

まだ不平等ないやな事がたくさんある現代に少しづつでも智力をあわして、すみよい社会にすべきだと思いつゝ帰途についた。

（本所　松尾スエノ）